

2023年7月13日

都道府県ライフセービング協会
JLA 加盟クラブ 各位

日本ライフセービング協会
ライフセービング教育本部

2023年度 ジュニアライフセービング教室（通年型支援）助成事業のご案内
～子ども達への水辺の安全教育プログラムの推進事業～

はじめに

コロナ禍から徐々に日常を取り戻してきている昨今ではありますが、マスクを外せない子どもたちに見られるように、以前とは様々なことが見えるところ、見えないところで変わってきているのではないのでしょうか。水泳授業を受ける機会を奪われた子どもたちや、外出制限により水辺から遠ざかった子どもたちもいるでしょう。ライフセーバーのいない海岸や、河川、湖沼など自然水域に行く機会が増え、残念ながらそれに関連する事故が増加傾向にあります。このような中、各地域のライフセービングクラブを拠点とした教育活動に、「何ができるだろうか」と感じていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。

子ども達が安全に水辺を楽しみ、体験を通じて得る多くの笑顔や感動、学びを後世に繋げていくために本事業を進めて参りたいと思います。

【概要】

「ウェットスーツ、e-Lifesaving、JLA ジュニアライフセービングバッジテストを活用した、ジュニアライフセービング教室の全国実施（5カ所）」

ライフセーバーや指導者が、ライフセービング教育の重要性を理解しながらも、全ての子ども達がライフセービングプログラムにアクセスできる状況は遠い。このような状況を打破するために、教育本部では「全てのライフセービングクラブでジュニアライフセービングプログラムを！」という目標を立てている。本助成により、多くの子ども達がジュニアライフセービングプログラムに参加できるよう、年間を通じたプログラム実施を目標に、足がかりとしてウェットスーツを活用した夏季以外のジュニアライフセービングプログラムを募集する。

審査方法は、原則として提出された企画提案書に対し、本事業評価基準を用いた評価点が高い団体から順に5団体を助成対象に決定し、企画の支援を行う。本助成事業を通し次の3点を踏まえ、ライフセービング教育の質の向上を目指す。

- ①各団体の実践を通じて、ジュニアライフセービング教室の体系的な実施と運営について共有を図る。
- ②教育本部委員を派遣し、計画や実施の支援を行いながら、実施状況を記録する。
- ③指導者、参加者アンケートを実施し、効果測定と課題抽出を行う。

【本事業実施目標】

- ① 「ジュニアライフセービング教室」を全国10ヶ所（新規支援5箇所、**通年型支援5箇所**）にて、参加者計200人を目標に実施。
- ② 事業成果物：地域クラブ等によるジュニアライフセービング教室の現地調査報告書及び、実施報告書の作成及び提出。

【企画内容】

- ① 子どもたちが楽しみながら水辺の安全について学び、知識や体力、技能、思考力や判断力等を育めるジュニアライフセービング教室を企画する。
- ② 子どもの理解度や発育発達段階に合わせた取り組みを体系化し、活動をより継続的なものにするため、JLA ジュニアライフセービングバッジテストを活用したプログラムの運営を企画する。
- ③ 各地の防災マップや津波フラッグを活用し、海浜で活動する際の実践的行動を理解する。ライフジャケットを着用しての避難の重要性や避難経路、避難場所までの道のりを体験から学ぶことで、防災意識を高める。
- ④ e-Lifesaving を事前学習、もしくは事後学習にて使用することで、安全にプログラムを実施し、プログラム全体の学びの質の向上に活用する。
- ⑤ 夏季以外にウェットスーツを活用したプログラムを企画し、水辺で活動する年間を通じたジュニアライフセービング教室の計画をする。

【選定方法】

企画提案書に基づき、JLA に設置された審査委員会において書類選考を実施する。

- ① 評価は、申請書の内容を加味しながら、企画提案項目ごとにそれぞれ「絶対評価」にて行うものとし5段階にて評価を行う。評価者が各々評価した採点結果の合計を平均したものを評価点とする。
- ② 評価基準
大変優れている=5/優れている=4/普通=3/やや劣っている=2/劣っている=1点

【実施対象期間】

本通知後から、2023年12月31日曜日までに実施するジュニアライフセービング教室を対象とする。
(機材発送のため9月1日金曜日以降の開催が望ましい。)

【支援対象クラブ条件】

- 1) 申請時に、2023年度都道府県ライフセービング協会、もしくはJLA加盟クラブであり、年間を通じたジュニアライフセービング教室を企画実施する団体とする。
- 2) 「2023年度ジュニアライフセービング教室助成事業申請書」・「2023年度ジュニアライフセービング教室助成事業企画提案書」・「事業完了報告書」を期限内に提出できること。
※夏季以外でのウェットスーツを活用した事業企画提案を提出すること。
- 3) 助成を受ける団体は、ジュニアインストラクター、ジュニアアシスタントインストラクター、リーダーのいずれかの資格を取得している指導員が指導する体制を作ることが望ましい。該当者がいない場合は事前にリーダー講習会を受講するか、リーダーに準ずる技能・経験があり、助成を受ける団体の代表者の承認を得た者とする。 ※今回の指導者がリーダー未取得の場合、当該ジュニアライフセービング教室実施前、または実施後にリーダー講習会を受講する。
- 4) ジュニアライフセービング教室の実施に興味のある方を、運営・指導スタッフとして受け入れる体制がとれること。
- 5) 教育本部委員による実地調査の受け入れ、e-Lifesavingに関するアンケート調査(参加者)への回答の提出ができること。

【助成対象範囲】

助成物品：下記ア～クの物件を助成事業として提供いたします。

- (ア) ニッパーボード 3 本
- (イ) ライフジャケット：15 着
- (ウ) ジュニア用ラッシュガード：15 枚
- (エ) ジュニア用キャップ：15 枚
- (オ) ジュニアテキスト：希望数
- (カ) ビーチかるた：1 セット（A4）
- (キ) 水辺の安全啓発用クリアファイル：希望数
- (ク) 掲出用ポップアップバナー：1 セット
- (ケ) ウェットスーツ（20 着）※フルスーツ 10 着、スプリングスーツ 10 着
※夏季以外でも海に入るプログラムを実施するための新たな支援である。

※申請し助成を受ける事業において、他の団体による助成を受けていないこと。

※「ジュニアライフセービングテキストブック」と「水辺の安全啓発用クリアファイル」は申請書に記載された参加予定数分をジュニア教室実施前に発送する。

【申請方法】

「2023 年度ジュニアライフセービング教室助成事業申請書」「2023 年度ジュニア・ライフセービング教室助成事業企画提案書」を申請締切日までに JLA 事務局までご提出ください。データでのご提出にご協力ください。申請が受理された団体に対し、その後の手続きについてご連絡いたします。

●提出先 E-mail：academy@jla.gr.jp

メールの件名：日本ライフセービング協会「日本財団ジュニア助成」係

【申請締切】

2023 年 7 月 31 日 月曜日 23 時 59 分 受信分まで

【事業完了報告書の提出】

助成対象のクラブの申請担当者の方に、後日報告書書式をメールで送らせていただきます（またはホームページに掲載）。報告書はデータ提出いただきますようご協力ください。事業報告内容は以下の通り。

1. 日時
2. 場所
3. 参加人数（年齢・職業等）
4. 指導員およびスタッフ名
5. 内容
6. 記録写真データ（メール添付、または SD カード等にて）
 - (ア) プログラムの様子、集合写真、助成物件使用中の写真等※写真は HP や SNS 等で一般公開可能なデータのみご提出ください。
 - (イ) その他の広報関連（新聞掲載のコピーなど）や関係書類
7. 事業総括

8. クラブで実施したアンケートや感想のコピー等
9. e-Lifesaving、JLA ジュニアバッジテストについてのフィードバック

【事業完了報告書の締切】

事業終了後、1ヶ月以内を目途に JLA 事務局までに完了報告書をご提出下さい。
最終締め切りは 2024 年 1 月 31 日火曜日午前 9 時までとします。

【その他】

申請等に関わる個人情報は、本事業における連絡業務に使用し、その他の目的では一切使用しません。

【お問い合わせ】

日本ライフセービング協会 事務局
〒105-0013 東京都港区浜松町 2-1-18 トップスビル 1 階
TEL : 03-3459-1445 E-mail : academy@jla.gr.jp

別紙 1 : 2023 年度ジュニアライフセービング教室助成事業申請書

別紙 2 : 2023 年度ジュニアライフセービング教室助成事業企画提案書

(企画提案書、ジュニアライフセービング教育指導案 (当日に実施する内容))



津波避難タワーを活用した防災教育例

写真左：ライフセーバーによる津波避難タワーを活用した津波フラッグ掲出のデモンストレーション。

写真右：津波避難タワー上で防災教育を実施。子どもたちはライフジャケットを着用した状態で砂浜から津波避難タワーまでの避難訓練を体験。



ジュニア用ラッシュガードのデザイン

※上記デザインは、変更になる可能性があります。



掲出用ポップアップバナー

※屋外屋内問わず、簡単に掲出が可能です。



ジュニア用ライフジャケット

TYPE A/桜マーク付き

※デザインは、変更になる可能性があります。



ジュニアライフセービングかるたを、砂浜で遊べる『ビーチかるた』（ビーチフラッグス方式）様に加工します。海が苦手な子でも砂浜で楽しめる種目として、ライフセービングのイベントや、プログラムの確立（名物化）を目指します。ビーチかるたの基本ルールや、安全上の留意点も配布します。

Keep Watch 子どもから目を離さない

家庭用プールでも「溺れる」リスクがあります。水辺の事故を防ぐため、必ず大人が目を離さず、手の届く範囲で見守りましょう。



子どもだけで遊ばせておくことはもっとも危険です。忙しくても、子どもから目を離さないようにしましょう。



溺れる時は、静かに溺れることが多いと言われています。動かない子どもや、不自然な動きに注意しましょう。

イラスト：消費者安全推進委員会イラスト集より

入水している子どもがいる時に、目を離した他の作業、携帯電話操作することなどにより、子どもの異変を見逃すことがあってはいけません。

e-Lifesaving 水辺で自分の身を守る方法を学ぶ専門サイト<無料>



e-Lifesaving 検索

- 事前学習
- 動画で考えよう!
- 実践動画集
- クイズ!



水辺の事故ゼロをめざすために、ご寄付をお願いいたします。



公益財団法人 日本ライフセービング協会

Water Safety

海やプールでおぼれない！ 水辺の安全 10ヶ条

水辺に向かう前に



気象や遊泳情報を知る
必ずその日の気象状況と海水質の情報や、泳いで良い場所なのか調べましょう。



危険な場所を知る
入水前に、海の状態をおこない場所や水深で安全に遊べるか調査をしましょう。



自分で自分を守る
浮く物やライフジャケット、機能的な泳ぎなどができる準備をしましょう。



足の届くところで遊ぶ
波の高さや水深、泳への流れなどを確認しながら入水し、足のつく範囲で遊びましょう。



休憩をしっかりとる
長時間の移動等で疲労がある場合は、到着直後の入水は控え、休憩をとってから遊びましょう。



飲んだら泳がない
アルコール飲料を飲んだからの入水は絶対にやめましょう。



避難経路を確認する
池や深みに備えて避難経路や津波避難タワーなどを確認しましょう。



風や離岸流に流されない
風や波、離岸流の発生に気を付けましょう。もしフロートが流されても決してつかない。



熱中症対策をする
体調管理と水分補給を心がけ、すぐに日陰で休める場所を確保しましょう。



Keep Watch目を離さない
一人一人がライフセーバーです。「Keep Watch」子どもから目を離さないでください。

水辺の安全啓発用の A4 サイズのクリアファイルです。水辺の安全 10 ヶ条を JLA オリジナルのアイコンで分かりやすくまとめています。

JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION